

カテゴリー	報道日	地区	ニュースソース	助産 News 掲載日
妊娠・分娩	2010.1.8	全国	読売	
タイトル	服薬中の授乳			

服薬中の授乳 OK? NO?

母乳育児と服薬についての考え方が変わりつつある。これまでは、乳児への影響を心配し、服薬中に母乳育児を中止する傾向が強かったが、実際には問題がない薬が大半で、授乳は続けられる。ただ、一部には授乳の中止が必要な薬もあり、母乳育児に詳しい医師らと相談することが大切だ。

いったん授乳を中断すると、その後母乳が出にくくなるケースもあり、母乳育児を続けたい母親には深刻な問題だ。実際は、多くの薬は母乳を与えながらの服用が可能である。

国立成育医療センター(東京都世田谷区)母性内科医長の村島温子さんも、「母親が服用した薬の大半は母乳に移行するといわれるが、ごく少量にすぎない」と話す。「子どもが母乳を飲み、薬の成分が腸で吸収されて有害となる例は非常に限られる。医療関係者にも、もっと理解してほしい」と指摘する。

薬の添付文書には薬の成分が母乳中に出る場合は、「授乳を避ける」などと記載されているものが多いが、最近の研究報告などから、問題がない薬が多いことが明らかになってきたという。その一方で、母乳育児は、栄養面や病気予防の利点があり、親子の絆を深めるなどの理解が広がっている。

国立成育医療センター内には「妊娠と薬情報センター」(03・5494・7845)があり、ホームページ(<http://www.ncchd.go.jp/kusuri/index.html>)では、「授乳中に使用しても問題ないとされる薬剤の代表例」177種と、抗がん剤など「授乳中に使用してはいけない薬剤の代表例」24種を紹介。授乳と服薬についての相談にも応じる。

薬の成分などは医薬品医療機器総合機構のホームページ(<http://www.info.pmda.go.jp/>)で調べることもできる。

村島さんは「こちらで薬のすべてを網羅しているわけではなく、今後情報が変化することもありうる。自己判断ではなく、母乳育児に詳しい医師らと相談して、使用や中止を決めることが重要です」と話している。

妊娠中の服薬については、時期や薬の種類などによって胎児への影響が異なる。「妊娠と薬情報センター」のほか、北海道大学病院など全国12か所の協力病院でも相談できる。